

課題・テーマ

小中高と系統的な学習指導のもと、学んできたことを土台にして効果的に発信力を高めるために、小中高連携を踏まえた授業開発・改善、ならびにパフォーマンステストと評価の開発

具体的な取組と工夫

- 連携校（古川第五小学校と古川南中学校）の授業参観・意見交換を通して、現状を把握し、授業や評価に反映
 - ・授業参観を通して、実際に生徒たちが小中学校で学んできた英語の表現や先生方の指導法について学び、共有した。
 - ・パフォーマンステストやその評価方法を共有し、小中高とつながりを持って発信力を養うことを共有した。
 - ・小中学校で学んだ学習内容とリンクさせた授業を検討し、実践した。
- 発信力育成を重視した授業設計
 - ・ペアやグループでのspeaking活動を多く取り入れ、聞いたり読んだりした内容や自分の考えを伝え合うことを中心にした授業構成
 - ・母語習得過程と同様、Speaking-first, Writing-secondの流れを意識し、話すことで自信をつけ、書くことで表現をより正確にできるよう指導した。
- 定期考査は初見文のみで出題
- 研修会を開催し、小学校・中学校・高等学校の先生方と情報交換を実施
 - ・10月28日（月）に文教大学 国際学部 阿野教授（New Horizon著者）をお招きし、公開授業の指導助言をいただいた。「小中高でバトンをつなぐ英語の指導－英語を楽しみ、英語力を伸ばすための指導と評価」という演題で御講演いただき、小中高の教員を交えたワークショップを行った。
- 古川第五小学校の6年生と古川高校1・2年生が合同英語授業を実施
 - ・古高生希望者60名が古川五小を訪問した。“My Best Memory”をモデルとして発表し、小学生の表現活動を支援する活動を行った。

成果

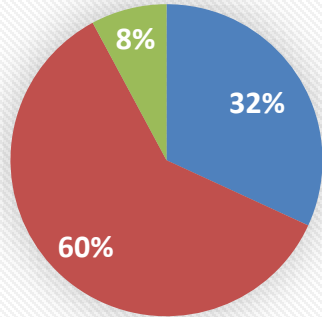
- Speaking 力・Writing力向上を実感（アンケートより）
 - 4skills の中で4月と比べて伸びたと感じるskillは？
 - < speaking 45% writing 72% >
- コミュニケーション力向上を実感（アンケートより）
 - speaking活動により他者と意見や気持ちを伝え合う楽しさや大切さを実感
- 考査での初見問題使用により応用力・思考力を強化、学習への動機づけ
 - 文脈を推測する力や、文法・単語の知識を総合的に活用する力が鍛えられた。また、「どんな英文でも対応できる」力を身につけようと学習スタイルを模索した。
- 小中高の現状を共有し、授業に反映
 - 小中で学んだ内容と関連付けることで、成長段階に応じて考えを深め、表現できた。

課題及び改善案

- 社会的課題に対する即興的・論理的意見の構築
 - 英語を使って考えをまとめ、意見を伝える多様な場面設定実践
- 小中高連携事業の活性化
 - 児童生徒、教員間の関りを増やす。8年間の系統的な英語学習を検討
- 評価に関する研究
 - 小中高8年間の評価方法を作成
- 資格試験の研究・奨励
 - 各種試験の説明会を実施、声掛

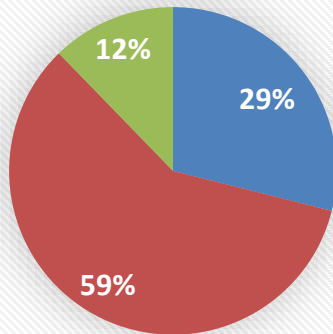
Can-Do リストの結果抜粋

教科書の内容について簡単な英語を用いて話すことができる



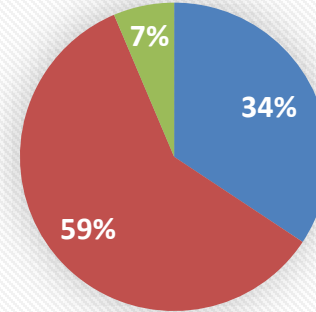
■ できる ■ まあまあできる ■ あまりできない

教科書の内容について自分の意見や感想を既習の学習事項を用いて簡潔に書くことができる



■ できる ■ まあまあできる ■ あまりできない

身近な話題について他者と簡単なやり取りができる



■ できる ■ まあまあできる ■ あまりできない

生徒のコメントから

- ペア学習が多くて自信を持って英語で話す力が身に付きました。
- 授業の中で英語で自分の考えを話したりペアの人と会話をするのが楽しかった。いろんな人と話すことで自分では思いつかなかった表現方法などがたくさんあって学ぶことができた。
- いろんな人と英語で話すことができて楽しかった。自分にはないその人の考えてることや意見などが聞けて考え方が変わったり教えてもらったりしてできていい経験になった。
- 中学校の時よりもペア学習がとて増えたため、相手の考えと自分の考えを共有して会話できたのが楽しかった。また、相手の使う語彙が勉強になったし、リスニングスキル、スピーキングスキルの向上に繋がった。
- ペアワークでの英語での意見交換が単語が分からないながらも伝える方法(簡単な単語、ジェスチャーなど)を学ぶことができて楽しかった。
- 自己紹介すらままならなかった状態からほんのちょっただけけれども英語を使って話せるようになって嬉しかった。まだまだわからないことばかりだし、英語で自分の考えを伝えるのは苦手だがいつか自信を持ってすらすら話せるようになっていたらいいなあと思っている。
- 他の人とコミュニケーションをとりながら文法を楽しく学ぶことができました。
- 苦手なspeaking を初めて楽しいと思えました。
- ペアワークが多く、人と英語でコミュニケーションをとることに抵抗感がなくなりました。

公開授業及び研修会

令和6年10月28日(月)

公開授業 英語コミュニケーション I

Lesson6 You and Your Smartphone

-Who's in Charge?

教諭 八鍬 真樹子

研修会 テーマ「小中高でバトンをつなぐ英語の授業
ー英語を楽しみ、英語力を伸ばすための指導と評価」

文教大学国際学部国際理解学科

阿野 幸一教授

参加された先生からのコメント

○中学時の学習内容を中高連携の視点に立ち取り入れているところは大変参考になりました。阿野先生の研修では、small talkの深め方を学ぶことができました。できるようになることを評価していくことの視野を持つ大切さを知ることができました。

○教科書を通して学び、自分の言葉で発信していくために何が必要なのか考えさせていただきました。生徒の発言を引き出すためにどのような計画を持って授業に臨むのか、どのような発問を投げかけるのか、非常に参考になりました。また、小中高のつながりにおいては、学校・地域としての取り組みが望ましいと思いますが、教員ひとりひとりが教材研究を行うだけでも大きな一歩かと思います。本日の学びを、自分の実践にいかしていきます。

○阿野先生の研修から、スモールトークの行い方、目的・場面・状況の適切な設定等、授業の仕方について再考すべき点がみつかりました。改善に繋げてきたいです。

○毎回この公開授業と阿野先生の御講演を楽しみにしています。卒業させた生徒たちをはじめ、高校生がどのように英語を学んでいるのか、中学校での英語の授業はどうあるべきなのか、たくさん学ばせていただきました。

古川第五小学校と小高連携授業

令和7年1月30日(木)

Unit7 My Best Memory

教諭 小野寺拓

○6年生3~4人 古高1・2年生3~4人で1グループを作り、高校生が中学、高校それぞれのMy Best Memoryをモデルとして発表し、小学生が小学校生活のMy Best Memoryを作成し、発表の練習を行う。高校生は小学生を支援する。

6年生 学活

○4クラスに高校生が12~13人ずつ入り、中学校、高校の生活や夢を語り合ったり、質問し合ったりする。(日本語で)

参加した古高生からのコメント

○友達と勉強を教え合うのとは違い、対象の小学生にも伝わりやすい英語を考えるのがポイントだったと感じた。英語に興味がある子やそうでない子など様々な児童がいる中で、高校生が積極的にコミュニケーションをとり、英語の楽しさを教えることが大切だと思った。

○英語の授業のレベルが私たちが小学校の時より格段に上がっていることに気づきました。小学生に教える教師側の英語力も上げていかなくてはならないと思いました。

○小学生にただ教えるだけでなく、一緒にどうなるか考えながら学ぶことが重要だと気づきました。

○終始、小学生から元気をもらいました!小学生は、とても一生懸命で、高校生の100倍素直で、まっすぐで、そんな姿を見ていると心が温かくなり、たくさん笑顔になりました!

古川第五小学校6年生のコメント

○英語を多く話していうらやましかった。古高のみなさんのように英語をうまくなりたい。

○外国語をハキハキはなして、スゴイと思いました。私も少しでも自信を持てはなせるようになりたいです。

○わからないことをていねいにおしえてくれたり、文章をいっしょに読んでくれたりしてうれしかった。

○勉強内容を教えてもらったり、アドバイスをもらったりして、今後の学校生活が楽しみと思っています。